

第3期中野市子ども・子育て支援事業計画（案）に対するパブリックコメントを令和7年2月13日から3月6日までの間、市民の皆様からの、意見を募集しましたところ2名の方から2件のご意見がありました。

意見の概要及び市の考え方は、下記のとおりです。

「第3期中野市子ども・子育て支援事業計画（案）」に関する 意見の概要とそれに対する市の考え方

■全般的な事項

No	意見の概要	市の考え方	修正
1	<p>今までの少子化対策として国でも対策しておりますが、全く改善しておりません。市や県レベルではなく国会の中でもっと議論されるべき問題だと思います。中野市独自の教育プログラムとして教育勅語、道徳教育を採り入れる。「末学」は手法や手段を考える学問、「本学」はその目的や背景を考える学問であるように、今の学校教育は「偏差値教育のみ」テストの点数が高い人が偉いみたいな教育になっております。</p> <p>探究心を忘れ、どう生きるかわからなくなり、不登校やいじめが過去最多となったのです。</p> <p>また、医療費や社会福祉費を、もっと子供達や子供を産み育てる家庭に与えてください。ここで子供が生みたいと思える「環境」をつくりましょう。</p>	<p>少子化対策は、国全体の問題であると認識しておりますが、本市においても重要な課題でありますので、個々の施策を検討し、子どもが生みたいと思える環境づくりに努めてまいります。</p>	—
2	<p>施策5 特別な援助を要する家庭への支援についてです。</p> <p>特別児童扶養手当の認定及び障害児の通う放課後サービス料金について、国や長野県の定めるところによるものなので、どうすることもできないかもしれません。これからの「学校給食無償化」は国に先駆けて、長野県の市では初の子育て支援です。中野市独自の子育て支援が障害児にも向けてもらえたらと願っています。本当の意味での中野市の子供達全員が安心して暮らせる街であってほしいです。</p>	<p>国や県の定めによる子育て支援以外の市独自の支援につきましては、可能な限り検討して参ります。</p>	—